



つくり手とつかい手をつなぐ 体験ワークショップ

## SDGs調査隊 探ろう“浜松のひみつ”



令和2年度、消費者庁より「地方消費者行政に関する先進的モデル事業」を受託した消費者教育支援センター（東京都）が、浜松市をフィールドにモデル事業を実施することになりました。浜松市くらしのセンターは、消費者教育を推進する立場から、この事業をサポートしています。

モデル事業の一つに、『消費者と生産者のそれぞれの立場から、人、社会、地域、環境に配慮したエシカル消費についての理解を深めるプログラムを開発する』というものがあり、11月に小学生高学年とその保護者を対象とした「SDGs調査隊 探ろう“浜松のひみつ”～第1回こだわりの食のひみつ～」が実施されました。また12月には第2回「遠州綿紬のひみつ」が実施され、さらに1月には児童養護施設の子どもを対象とした、第3回「こだわりの食のひみつ」が実施される予定です。

コロナ禍での開催となり、感染予防対策をした上で参加者を各10組以下に限定しての実施となりました。このプログラムのねらいは、消費と生産が分断されている現代社会において、「事業所見学」を通して消費者が生産者の思いや願いを知り、普段の消費生活を振り返ることです。体験を通じた学びは興味関心を高め、理解を深めることは承知していましたが、今回のプログラムの体験は心に響くものが多かったと思います。例えば「こだわりの食のひみつ」では、生後2日目の子豚を抱っこする体験があり、子豚の温かな体温や鼓動が手に伝わると、子どもたちからは感動の声がつぶやかれました。食べることは命をいただくことだと実感させられた体験でした。また添加物のないソーセージづくりをしたことで、食の安全安心について興味をもち、保存料を添加しないと賞味期限が短くなり、価格が少し高くなる等様々な学びがありました。

農福連携のユニバーサル農業を実践されている農場見学では、障がい者と一緒に仕事をする中で、働きやすい職場環境づくりが進み、現在10代から80代までの幅広い年齢層の従業員が働いているということを知り、農業の可能性を学びました。

また「遠州綿紬のひみつ」では、江戸時代から始まった遠州綿紬の歴史を知ると共に、職人さんの仕事場を見学し話を聞くことで、これまで知らなかった遠州綿紬の魅力をたくさん知ることができました。

今回のプログラムでは、私にとっても新たな発見がたくさんありましたが、その一つはこれらの商品の原材料は国産ではないという事実です。例えば豚の飼料となる小麦やトウモロコシはアメリカ産、青梗菜、みつばの種子はブラジル産、また綿紬の原材料である綿花はブラジルやオーストラリア産で、それをインドネシアで糸にして日本に運ばれているということでした。世界はつながっていることを実感し、世界が平和でないと成り立たないことだと思いました。

感動は学びのモチベーションを高め、知的好奇心を刺激することを今回のプログラムで改めて確認することができました。参加した子どもたちが、今後どんな発信をするのか楽しみにしています。体験を通じた学びは家庭科の得意分野です。これからも授業等で魅力ある体験学習が実践されることを願っています。

浜松市くらしのセンター 消費者教育コーディネーター 杉本 真弓

## 小学校家庭科研究部 第3回研修会報告

令和2年11月4日(水)於:浜松市教育センター

### 講話「新学習指導要領全面実施における評価方法」

静岡大学教育学部 小清水貴子准教授

新学習指導要領における評価方法について、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点ごとに具体例を挙げて、分かりやすく教えていただきました。

#### 知識・技能

- 学習の過程を通じた知識及び技能の習得状況を評価する。  
(例)・ペーパーテスト
- 他の学習や生活場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得しているかについて評価する。  
(例)・文章で説明する問題(なぜ、青菜とイモは違う茹で方なのか?)
  - ・応用問題(ニンジンはどうのように茹でるのか?)
  - ・観察、実験をしたことを、式やグラフで表現する活動

#### 思考・判断・表現

- 課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかを評価する。  
(例)・ペーパーテスト      ・論述、レポート作成
  - ・発表      ・グループでの話し合い      ・作品制作      ・ポートフォリオ



教師の「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善、思考・判断・表現する場面を効果的に設計し、どのような考えをもっているかを継続的に見ていくことが大切です。

#### 主体的に学習に取り組む態度

- 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしている側面を評価する。
- 粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面を評価する。  
(例)・ノートやレポート等
  - ・自己評価や相互評価の状況
  - ・発言や行動の観察

自らの判断を振り返ったり、自分の苦手を理解して粘り強く取り組んだりすることが大切です。学習の調整が知識及び技能の習得に結び付いていない場合には、教師が学習の進め方を適切に指導します。

評価の充実のために、①子供の学習改善のための評価、②教師の指導改善のための評価、③必要性・妥当性のある評価という視点が大切になるというお話がありました。子供が自ら学習を調整していくための評価、努力の方向性が分かる評価を心がけたいと、改めて感じました。

【編集後記】1月号より、小学校家庭科部の家庭科だより「まど」を担当させていただきます。より充実した家庭科の授業づくりの一助となるよう努めますので、ご協力よろしくお願い申し上げます。  
まど担当 副部長 河村 鮎美(追分小)